

新たな「三重県子ども条例」をつくりたい！

私が制定に取り組んだ「三重県子ども条例」(2010年施行)は、施行後10年以上が経過しました。この間、子どもの権利に関する法律が、次々と改正され、子どもの権利がより保障されるよう具体化されています。その一方で、コロナ禍の中、子どもを取り巻く状況がさらに厳しさを増しており、私は、子どもの貧困や児童虐待、ヤングケアラー等の問題を一般質問等(2021年6月16日等)で何度も訴えてきました。

子どもの貧困

- ▶ 日本の子どもの貧困率は **13.5%**
- ▶ 子どもの **7人に1人** が貧困家庭
- ▶ ひとり親世帯の貧困率は **48.1%**

コロナ禍の中、食事が取れていない、生理用品が準備できない等、命と健康の状況が悪化し、教育格差はさらに拡大している。

ヤングケアラーの実態に関する調査研究(厚生労働省)

「世話している家族がいる」と回答したのは...

中学生の **5.7%** ▶ 全日制高校生の **4.1%** ▶ 定時制高校生の **8.5%** ▶ 通信制高校生の **11.0%**

してほしい支援では、「学校の勉強や受験勉強など学習のサポート」「自由に使える時間がほしい」の割合が高い。**子どものケアラーが奪われている権利は多大!**

三重県は2022年度、児童相談所への外国人支援員の配置、ヤングケアラーの実態調査、子どもの性被害対応強化事業等に取り組むとしています。また、外部の専門家の参加の下、これまでの子ども施策の検証を行っています。今後、私は、三重県における子どもの実態をしっかりとらえ直し、子ども条例の見直しと、より子どもに寄り添った計画が策定されるよう取り組みます。

頻発する児童虐待

三重県では...

2016年 四日市市/当時6歳児の虐待死
2020年 亀山市/当時5歳児死亡(虐待の疑い)

コロナ禍の中、2021年、三重県の虐待相談件数は、過去最高。

子どもの性被害等

10代の望まぬ妊娠、性暴力、性虐待など、性被害にさらされている子どもがいる。にもかかわらず、子どもは無防備であり、性教育は不十分。性の多様性に関する高校生の実態調査によると、当事者がいじめやからかいの被害を受け、生きづらさを感じている。きめ細かにていねいに見ていく必要がある。

教育

- ・少人数教育推進事業(13億4903万円)
- ・スクールカウンセラー等活用事業(3億9078万円)
- ・不登校対策事業(4498万円)
- ・外国人児童生徒教育推進事業(3408万円)
- ・就学前教育の質向上事業(8051万円)
- ・みえ子どもの元気アップ部活動充実事業(5885万円)
- ・運動部活動支援事業(1億9198万円)
- ・実習船「しろちどり」建造事業(8億4566万円)
- ・特別支援学校施設建築費(9億444万円)
- ・校舎その他建築費(28億1628万円)
- ・スクール・サポート・スタッフ配置事業(3億1737万円)

※2022年度569人

子ども

- ・児童虐待法的対応推進事業(1億5394万円)
- ・児童一時保護事業(3億1194万円)
- ・若年層における児童虐待予防事業(1027万円)
- ・児童養護施設費(2億6490万円)
- ・地域子ども・子育て支援事業(6億3143万円)
- ・保育対策総合支援事業(3億6661万円)
- ・放課後児童対策事業費補助金(13億5926万円)
- ・子どもの貧困対策推進事業(1711万円)
- ・ヤングケアラー支援事業(1681万円)
- ・医療的ケアが必要な障がい児・者の受け皿整備事業(2975万円)

令和4年度

三重県
当初予算
子ども・教育
の主な事業

県政・県議会に対しての
ご質問やご意見をお待ちしています。



杉本ゆや事務所 〒514-0003 津市桜橋2丁目142
TEL 059-226-6252 FAX 059-227-7139

YOU(あなた)とYUYA(ゆや)をつなぐYY(わいわい)通信

2022年
特別号

子ども・
教育政策
編

ゆや活動報告

発行責任者／三重県議会議員 杉本熊野

春らしい、明るい陽ざしの季節となりました。

新型コロナウイルス感染症の収束が未だ見通せず、私たちは、不安感と不安定のなかにあります。

今、学校では、友だちや先生との距離の確保や、教育活動の制限が続き、このことが、将来的に子どもたちの育ちに、何らかの影響を及ぼすのではないかと危惧されています。そのような中、教職員の皆さんには、子どもたちの安全安心と豊かな学びの確保のために、日々生懸命の取り組みを続けておられ、深く感謝申し上げます。

一方、学校教育を取り巻く状況は、大変厳しく、ことに昨今の教員不足は深刻で、先日、文部科学省は、「2021年度始業日の公立学校の教員不足数」は2065人であったことを公表しました。三重県でも特に年度途中の産育休や病休では、欠員補充は困難を極め、学校内で管理職含め代替を行うなどしていますが、多忙を極める学校現場がさらに無理を重ねる事態となっています。

文科省は、教員不足の原因をしっかりと検証し、教職員配置の拡充をはじめ教育政策を抜本的に見直す必要があると考えます。今後も、現場の実態をしっかりとらえ、意見反映できるよう取り組みをすすめます。

私の活動の原点は、教室の子どもたちです。

子どもが安心して育つ、あたたかな眼差しの社会にしたい。若者が希望を語り、高齢者や障がい者など、誰もが安心して暮らせる社会にしたい。

そんな願いを胸に、これからも精一杯がんばります。

皆さまのご指導ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



一志町に現れたあのかげの「ドア」!

コロナ禍における子どもの安全安心を!

全ての校種の学級編制基準を、改善したい!

今、学校では、手洗いやマスクの励行、消毒、「3つの密」を避けるための対策が、綿密に行われています。しかし、どうしても回避できないのが、**教室の密**です。私は、40人学級は早急に見直すべきと、一般質問(2020年10月5日)で、強く訴えました。

その結果、国は、学級編制基準を小学校に限り、全学年を2021年度から5年かけて段階的に35人まで引き下げる方針となり、**三重県では、国の方針を一年前倒して、35人学級をすすめることになりました。**

2022年度 小学校学級 編制の状況		1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	2022年度 中学校学級 編制の状況		1年生	2年生	3年生
	国の基準	35人	35人	35人	40人	40人	40人		国の基準	40人	40人	40人
	三重県の基準	30人	30人	35人	35人	40人	40人		三重県の基準	35人	40人	40人

今後は、小学校だけではなく、**中学校高等学校等全ての校種で、40人学級を早急に見直し、30人学級が実現できるよう、引き続き取り組みます。また、教員の支援を行うスクール・サポート・スタッフの全校配置を、引き続きすすめます。**

1学級に
40人は密です!!

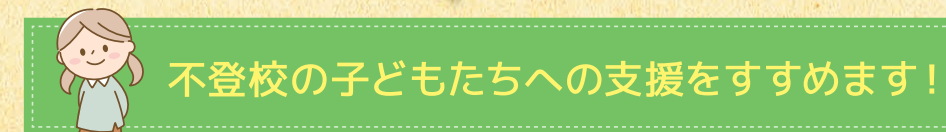




2019～2021年の活動をふりかえり



子どもたちに**安全安心**と**豊かな学び**を！



不登校の子どもたちへの支援をすすめます！

コロナ禍のなか、今、不登校の子どもたちが、年々増えています。

私は、一般質問等で(2019年6月10日関連質問・2021年6月16日一般質問)不登校の子どもたちの支援について取り上げました。現在、三重県では、**市町の教育支援センターにスクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーを配置し、専門的な支援を行うとともに、**

2020年度三重県(公立学校)の不登校児童生徒数

三重県 (公立学校)	小学校		中学校		高等学校	
	不登校児童数	1000人あたりの不登校児童数	不登校生徒数	1000人あたりの不登校生徒数	不登校生徒数	1000人あたりの不登校生徒数
	823人	9.1人	1,616人	35.9人	760人	21.3人

訪問型の支援に取り組んでいます。来年度は、高校生段階での不登校や休学の子どもたちへの学習支援や自立支援にむけて、**県立教育支援センター設置の実証研究や、オンラインを活用した居場所づくり事業**によって、不登校の子どもたちが社会につながるきっかけづくりにも取り組む予定です。

不登校の子どもや家族への支援や学校の体制整備に、引き続き取り組みます。

オンライン活用などに取り組む予定です



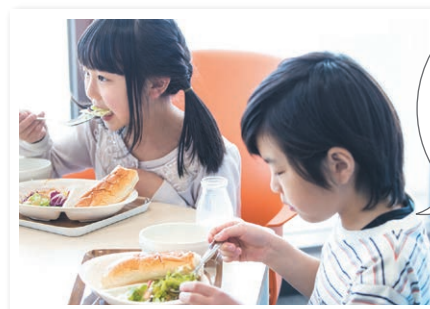
学校給食費の公会計化をすすめます！

学校給食の会計業務は、多くの学校で教員が担っています。食材を各業者に発注し、業者からの納品書・請求書を整理し、それぞれ業者への支払い額・入金表を作成し、業者口座に振り込む等が、毎月の業務です。転出入時、学校行事や風水害、感染症等による臨時休業に対しても、その都度、全ての業者へ連絡する業務もあります。このような現状をふまえ、教員の業務負担を軽減し、保護者の利便性を向上するため、文部科学省は、令和元年7月「学校給食費徴収・管理に関するガイドライン」を公表しました。ガイドラインでは、学校給食費を地方公共団体の「公会計制度」に組み入れ、保護者からの給食費の徴収・管理業務は地方公共団体の業務として行う

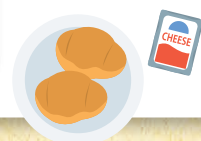
ことが適切だとしています。

現在、三重県では、すでに亀山市、木曽岬町、東員町、御浜町において、学校給食費が公会計化されており、一部公会計化の市町や今後導入予定の市町もあります。

引き続き学校給食費の公会計化をすすめます。



公会計化は教員の業務負担の軽減、保護者の利便性の向上となります！



2022年も精一杯がんばります！



夜間中学等、学び直しの機会を、確保します！

国が、全ての都道府県に少なくとも一つ夜間中学を設置する方向性を示している中、私は、夜間中学校の設置の検討を求めてきました。(2019年6月10日関連質問)(2021年6月16日一般質問)

三重県では、昨年、夜間中学校のニーズ調査を行い、不登校経験者からは「学び直したい」、外国人からは「日本語を学びたい」など、高いニーズを把握することがで

きました。

今、津市(三重県総合教育センター)と四日市(北星高校)で、学び直しをする教室を実証的に実施しており、**2022年10月頃には、設置するかどうかの判断をする予定です。**

今後、私は、夜間中学等、誰もが学び直しの機会に出会えるよう取り組みをすすめます。



三重県立国児学園の改築をすすめます！

国児学園の本館は、1961年に建築され、今ある県の建物全体で、最も古い建物のひとつで、大変老朽化しています。

私は、子どもたちが暮らす寮と学校施設を視察し、子どもの最善の利益を提供できる環境ではないことを、当初予算総括的質疑(2021年12月14日)でとりあげ、早急

に国児学園改築計画を策定するよう強く要望しました。その結果、**今、「国児学園在り方検討会」報告書(2017年3月)を基本にしながら、令和5年度以降を目途に整備をしていくための議論がすすめられています。**また、2022年度末までに、男子寮の浴室整備や教室の造設が行われる予定です。



整備に向けて取り組んでいます



三重県立盲学校及び聾学校の新築移転をすすめます！

盲学校及び聾学校は、それぞれ視覚障がい、聴覚障がいのある幼児児童生徒が通学する県内唯一の特別支援学校ですが、校舎の築年数が約50年を経過し、老朽化がすすんでいます。

そこで、両校を、津市城山の旧県立小児診療センターあすなろ学園および旧県立草の実りハビリテーションの跡地に移転し新築する計画がすすんでいます。また、それに合わせて、盲学校、聾学校、城山特別支援学校の寄宿舎を統合し、城山特別支援学校の敷地内に、共用の

新しい寄宿舎が整備されます。

2022年度は、校舎建築の設計と、寄宿舎建築工事が行われる予定で、新校舎は、「三重の木」を中心に用いる木造建築群で、豊かな空間をつくりたいとしています。

(2019年10月2日一般質問)

今後も、現場の実態をしっかりと把握し、意見反映するとともに、教育活動や通学通勤の安全安心確保や、新しい時代に対応したICT機器の活用などの取り組みをすすめます。



三重の木を使った豊かな空間に！



自然の中で子どもは育つ！



おたまじゃくし いるかな？



のこぎりってむつかしい！



お花大好き！



木の上はいいながめ～